

教員養成に対する理念及び認定課程設置の趣旨等

1. 大学としての教員養成に対する理念及び認定課程設置の趣旨等

本学の教員養成に対する基本的な考えは、順正学園の建学の理念である「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」の体现である。また、社会福祉学部における教育目標は「社会福祉に関する専門知識及び技術を教授すると共に、豊かな人間性を涵養し、福祉分野等で即戦力として活躍しつつ福祉社会の創造的な担い手となる専門職業人の養成を目的とする」である。

福祉社会の実現のためには、これからの福祉社会を創造する担い手を育成し、福祉社会に携わる後進を指導する人材の育成が重要である。これらの方針に基づき、以下に掲げる教師の養成を目的としている。

1. 福祉社会に向け、幅広い視野と高度の専門知識・技能を兼ね備えた教師
2. 豊かな人間性を身につけ、信頼される教師
3. 進んで自己研鑽を継続できる教師

設置の趣旨

本学は平成 11 年に、宮崎県延岡市民の強い要請・要望を受け、「介護・福祉・医療に関する理論及び社会の問題を教育研究し、応用能力をもつ人格を陶冶する」ことを目的に設立された。社会福祉学部は延岡市における「介護・福祉」分野のさらなる充実のため地域への貢献を推進している。教職課程の設置は、学生や保護者の、そして地域社会の強い要望であり、建学の理念である「社会に貢献できる有為な人材を養成する」に合致している。さらに、複雑化・多様化する社会の諸問題に対し、多面的な支援力を備えた教師の育成が望まれている。本学においてはその要望にこたえる人材の育成を目指して、教職課程を設置している。

2. 認定を受けている課程を有する学科等の教員養成に対する理念及び設置の趣旨等

● 社会福祉学部スポーツ健康福祉学科（中一種免（保健体育）・高一種免（保健体育））

健康福祉学の観点から、スポーツを通して心身の健康の維持・回復（リハビリテーション）・増進を担う人材を養成することを教育目標としている。この目標を地域にあって達成する一つの方法として、青少年の体力増進教育や生活習慣病の予防教育等を推進できる保健体育教員の養成を位置づけている。

本学科では、教育と福祉の両面を学ぶことによって、子どもたちを取り巻く環境にも着目でき、個人の上に責任を求めるのではなく、環境との相互影響に焦点を当て、問題だけではなく可能性にも目を向け、幅広い視野を持って生徒指導上の諸課題に対応できる教員の養成を目指している。

● 社会福祉学部臨床福祉学科臨床福祉専攻（高一種免（福祉））

社会福祉学部 臨床福祉学科 臨床福祉専攻は、福祉の高度の専門的知識と実践力を備えた人材を育成し、「福祉社会」の実現に資することを教育目標としている。その人材の育成の一環として、高校の生徒たちに、率先して「福祉社会」の実現への意識を持たせるような教員の養成も極めて重要と考えている。本専攻では、様々な福祉の現場で人間本位の福祉サービスが提供できるようになるために、社会や文化、歴史、科学などの基礎科目、福祉実践に必要な専門科目を適切に配置している。また、福祉現場での実習と卒業論文の作成(必修)に重点を置いている。学生は、実習や卒論研究を通して現場で様々な人とかわり、組織の在り方を体得し、調査研究によって、深く社会の問題を考えるようになる。このことにより、「広い視野に立ち、社会について主体的に考察し、理解を深めていく」という、学びの活動を実践している。ここで学んだ学生が、教育現場で「福祉」の教員として後進の指導に当たり、福祉社会の実現に貢献できるように、本専攻に教職課程を設定した。

課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

<スポーツ健康福祉学科>（認定課程：中一種免（保健体育））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や服装、言葉遣い、文章表現など社会人としての基本的作法を身に付けている。 ・スポーツに親しみ、スポーツによる自己表現と他者とのコミュニケーションができる。 ・教職の意義、教員の役割と職務内容、教育に関する各種法令等の基礎を理解し、教員としての自己の将来像を目指して学習課題を見ずえることができる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルについて理解し、情報機器を用いた情報収集や意見発表ができる。 ・スポーツによる健康な生活の実践や安全管理に関する基礎的事項を理解している。 ・教育の理念と歴史、学校教育の任務と教師の役割について理解し、現代教育をめぐる問題と課題について考えることができる。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の基本理念および教育の権利について理解している。 ・英語の読解力を深め、英語による初歩的なコミュニケーションができる。 ・学習と発達に関わる基礎的な心理学知識を身に付けている。 ・道徳教育の課題と方法について理解し、道徳の指導案を作成することができる。 ・生徒指導の意義と役割等について理解し、具体的方法を構想することができる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成の基礎理論および中学校学習指導要領「総則」の概要を理解している。 ・公教育の制度と教育に関する法体系、教育行政機関の役割等について理解している。 ・教育相談の基本的理念および子どもの心身の発達と支援方法について理解している。 ・特別活動の意義と目的、特別活動各分野のねらいと内容、方法について理解している。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科教育の理論と歴史について理解している。 ・学校学習指導要領「保健体育」の目標と内容について理解している。 ・これまでに学んだ専門科目の内容を保健体育科教育の観点からとらえることができる。 ・保健体育科授業における教材の意義および教材研究の要点について理解している。 ・保健体育科の授業づくりの要点を理解し、保健・体育各分野の指導計画を構想できる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科の教育内容に関わる保健衛生と身体技法について深く理解し、中学生の身体発達の特徴を踏まえて保健分野、体育分野の指導案を作成することができる。 ・教育の目的を達成するための教育方法の意義について理解し、教育効果を高める技術と情報機器および教材の活用の具体的方策について構想することができる。 ・教育実習の目的について理解し、教育実習に向けての自己の課題を自覚している。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校保健体育科授業の指導案を作成し、実際に指導することができる。 ・生徒指導や学級経営について理解し、実際に遂行することができる。 ・校務分掌や他の教員との協力について理解し、実際に遂行することができる。 ・教育実習の成果を振り返り、教師としての力量を高めるための自己の課題について理解している。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や実習等の経験をとおして、自分が教師としての資質能力をどの程度まで修得しているかを客観的に把握している。 ・教職に向けて今後さらにどのような課題に取り組むべきかを理解し、その課題に取り組もうとする姿勢を身に付けている。

<スポーツ健康福祉学科>（認定課程：高一種免（保健体育））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や服装、言葉遣い、文章表現など社会人としての基本的作法を身に付けている。 ・スポーツに親しみ、スポーツによる自己表現と他者とのコミュニケーションができる。 ・教職の意義、教員の役割と職務内容、教育に関する各種法令等の基礎を理解し、教員としての自己の将来像を目指して学習課題を見ずえることができる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルについて理解し、情報機器を用いた情報収集や意見発表ができる。 ・スポーツによる健康な生活の実践や安全管理に関する基礎的事項を理解している。 ・教育の理念と歴史、学校教育の任務と教師の役割について理解し、現代教育をめぐる問題と課題について考えることができる。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の基本理念および教育の権利について理解している。 ・英語の読解力を深め、英語による初歩的なコミュニケーションができる。 ・学習と発達に関わる基礎的な心理学知識を身につけている。 ・生徒指導の意義と役割等について理解し、具体的方法を構想することができる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成の基礎理論および中学校学習指導要領「総則」の概要を理解している。 ・公教育の制度と教育に関する法体系、教育行政機関の役割等について理解している。 ・教育相談の基本的理念および子どもの心身の発達と支援方法について理解している。 ・特別活動の意義と目的、特別活動各分野のねらいと内容、方法について理解している。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科教育の理論と歴史について理解している。 ・高等学校学習指導要領「保健体育」の目標と内容について理解している。 ・これまでに学んだ専門科目の内容を保健体育科教育の観点からとらえることができる。 ・保健体育科授業における教材の意義および教材研究の要点について理解している。 ・保健体育科の授業づくりの要点を理解し、保健・体育各科目の指導計画を構想できる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科の教育内容に関わる保健衛生と身体技法について深く理解し、高校生の身体発達の特徴を踏まえて保健科目、体育科目の指導案を作成することができる。 ・教育の目的を達成するための教育方法の意義について理解し、教育効果を高める技術と情報機器および教材の活用の具体的方策について構想することができる。 ・教育実習の目的について理解し、教育実習に向けての自己の課題を自覚している。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校保健体育科授業の指導案を作成し、実際に指導することができる。 ・生徒指導や学級経営について理解し、実際に遂行することができる。 ・校務分掌や他の教員との協力について理解し、実際に遂行することができる。 ・実習の成果を振り返り、教師としての力量を高めるための自己の課題について理解している。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や実習等の経験をとおして、自分が教師としての資質能力をどの程度まで修得しているかを客観的に把握している。 ・教職に向けて、今後さらにどのような課題に取り組むべきかを理解し、その課題に取り組もうとする姿勢を身に付けている。

<臨床福祉学科臨床福祉専攻>（認定課程：高一種免（福祉））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や服装、言葉遣い、文章表現など社会人としての基本的作法を身に付けている。 ・スポーツに親しみ、スポーツによる自己表現や他者とのコミュニケーションができる。 ・教職の意義、教員の役割と職務内容、教育に関する各種法令等の基礎を理解し、教員としての自己の将来像を目指して学習課題を見ずえることができる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルについて理解し、情報機器を用いた情報収集や意見発表ができる。 ・スポーツによる健康な生活の実践や安全管理に関する基礎的事項を理解している。 ・教育の理念と歴史、学校教育の任務と教師の役割について理解し、現代教育をめぐる問題と課題について考えることができる。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の基本理念および教育の権利について理解している。 ・英語の読解力を深め、英語による初歩的なコミュニケーションができる。 ・学習と発達に関わる基礎的な心理学知識を身につけている。 ・生徒指導の意義と役割等について理解し、具体的方法を構想することができる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成の基礎理論および中学校学習指導要領「総則」の概要を理解している。 ・公教育の制度と教育に関する法体系、教育行政機関の役割等について理解している。 ・教育相談の基本的理念および子どもの心身の発達と支援方法について理解している。 ・特別活動の意義と目的、特別活動各分野のねらいと内容、方法について理解している。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の概念および高等学校の教科「福祉」の歴史と内容を理解している。 ・教科「福祉」の各科目の目標と内容構成および指導上の留意点について理解している。 ・教科「福祉」の授業における教材の意義および教材研究の要点について理解している。 ・教科「福祉」の授業づくりの要点を理解し、各科目の指導計画を構想できる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科「福祉」の指導方法および評価の実際について理解を深め、各科目の具体的な指導案を作成して実際に模擬授業を展開することができる。 ・教育の目的を達成するための教育方法の意義について理解し、教育効果を高める技術と情報機器および教材の活用の具体的方策について構想することができる。 ・教育実習の目的について理解し、教育実習に向けての自己の課題を自覚している。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科「福祉」授業の指導案を作成し、実際に指導することができる。 ・生徒指導や学級経営について理解し、実際に遂行することができる。 ・校務分掌や他の教員との協力について理解し、実際に遂行することができる。 ・実習の成果を振り返り、教師としての力量を高めるための自己の課題について理解している。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や実習等の経験をとおして、自分が教師としての資質能力をどの程度まで修得しているかを客観的に把握している。 ・教職に向けて、今後さらにどのような課題に取り組むべきかを理解し、その課題に取り組もうとする姿勢を身に付けている。